

様式(細則 6-2)

令和 7 年 2 月 16 日

浜田市議会議長 様

議員名 牛 尾 昭

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

食とエネルギーが循環する山形県飯豊町の里山（オンライン）

2. 受講の目的（市政との関連など）

里山の保全について学ぶ

3. 期間（移動日を含む）

令和 7 年 2 月 2 日（日）13：00～15：00

4. 経費

1,000 円

（経費内訳 受講料 1,000 円 、旅費 0 円 ）

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

牛糞を地下パイプで集めて発酵させ、できたガスでの発電し廃棄物は液肥や堆肥の原料としている。ゼロカーボンへの地域の取組。

6. 研修内容

（詳細は別紙のとおり）



食とエネルギーが循環する山形県飯豊町の里山

日 時：令和 7 年 2 月 2 日 13:00～15:00

研修先：スマートテロワール協会オンライン講演会第 30 回(オンライン参加)

講 師：後藤博信氏 「東北おひさま発電社長」

講 師：後藤幸平氏：前飯豊町町長

進 行：藻谷浩介氏：日本総研上席研究員

【後藤社長】

飯豊町から上京、野村証券で副社長を務める。2009 年 63 歳の時に、前飯豊町長後藤幸平氏に請われ副町長に就任、故郷のために新たな挑戦を始める。2 年後の東日本大震災では山形県は無事で、飯豊町を通る国道 113 号線が、太平洋側の被災地に物資を送る命綱となる。しかし後藤氏は 財界人時代に原発の安全性を信じたことを深く反省。太陽光・小水力・バイオマス など、原発に代わる再生可能エネルギーを、自分たちで作ると決心し、行政の立場を超える活動のため、副町長を辞し、地元企業の出資を得て、東北おひさま発電（株）を設立。隣町の長井市外で太陽光発電所を 4 ヶ所と、農業用水路利用の小水力発電所を 1 ヶ所稼働させ、更に銘柄牛「米沢牛」の 4 割を生産する飯豊町内で、「ながめやまバイオガス発電所」を開業させた。複数の畜産・酪農業者から、地下パイプで牛ふんを集めて発酵させ、出来たガスで発電する。町内の世帯の 4 割の需要を賄う電力と、融雪用の熱が得られ廃棄物は液肥や堆肥の原料になる。糞尿の悪臭や処理コストという畜産農家の問題、有機肥料の不足という作付け農家の問題の解決へ。さらには周辺 5 市町を含む置賜地域から電力会社に支払われる年間 340 億円の電気代負担の軽減へ。地域電力会社「おきたま新電力」も設立され、ゼロカーボン地域に向けて取組が進んでいる。

飯豊町も、後藤社長を副町長に招聘した後藤前町長のもと、全国に先駆けた取組を進めてきた。2000 年には「飯豊町地域新エネルギービジョン」、2008 年には、「飯豊町バイオマスタウン構想」を策定。さらに 2017 年には、内閣府と 6 省が共同で推進する「バイオマス産業都市」に認定された。おひさま発電によるバイオガス発電のほか、木質バイオマス発電の推進などに取り組まれている。

【考察】

本年度最後の講演会で、豊かな農業が営まれている田舎であるからこそ出来る地域内循環再生。農業のためにも、住民のためにも、環境のためにも「三方よし」の取組を知り、日本の地方と農業の大いなる可能性を感じた。以上報告します。牛尾昭。